

**DATA：放射線科**

- 施設認定：日本医学放射線学会放射線科専門医認定修練機関（全部門）、日本 IVR 学会 IVR 専門医修練認定施設
- 放射線診断：CT 検査、MRI 検査、核医学 (RI) 検査、超音波検査、IVR 放射線治療：治療用 CT、3D-CRT、IGRT、リニアック（直線加速装置）、高線量率密封小線源治療装置（マイクロセレクトロン HDR-V3）、治療計画装置



◀放射線科 HP

当日に99%診断を確定

当科は放射線診断部門と放射線治療部門に分かれており、現在、常勤医 7 名（診断部門 5 名、治療部門 2 名）とともに放射線技師 29 名が所属しているほか、看護師 17 名が配置されています。診断部門には 4 名の日本医学放射線学会放射線診断専門医がおり、このうち 2 名は日本 IVR 学会専門医です。また治療部門の 2 名は日本医学放射線学会治療専門医です。このような充実した体制に加えて十数名の非常勤医師が、主に診断部門に携わっています。

一日あたりの検査数は、CT：約 120 件、MRI：約 40 件、超音波：約 20 件、核医学：約 5 件と、数多く行っています。CT の場合、約半数が前日までの予約検査で、残る半数は外来や救急など当日依頼されるものとなります。当院では迅速な診断を行うべく、撮影当日に 99% 近くの画像を診断しています。残る 1% は夜間に急変した入院患者さんや救急外来からのオーダーとなり、翌日に画像診断を確定しています。

近年の検査機器はコンピュータで画像データが得られるようになったため、撮影枚数が飛躍的に増えました。なかには 1 回の撮影で画像が 1,000 枚を超えることもあります。このような状況のなか、私たちにはこの膨大な量の画像をより速く、正確に読影する技術力が求められています。

診断の「ゲートキーパー」を担う

診断部門では主治医が見立てる疾患を追認することが多いのですが、私たちの目を通して別の所見が見つかることもあります。また、画像診断では疾患の程度や広がり判断する場合もあり、私たちの診断結果によって治療方針が変更となることもあります。つま

より速く、より正確な診断を目指す



り、主治医とともに患者さんの状態を客観的に判断する「ゲートキーパー」の役割を担っている部門であるともいえます。

私たちは放射線科の診断レベルが上がることで適切な診断・治療が行われ、ひいては病院自体のレベルも上がると考えており、非常に重要な役割を担っていると自負しています。

良好な関係は適切な治療の糧に

診断部門に所属する放射線技師とは、定期的に疾患や症状に対する撮影手順を共有し、過不足なく必要な画像が得られるよう常にコミュニケーションをとっています。また、多くの病院では、放射線科の検査室と読影室が分かれています。当科は検査室のなかに読影室があるのが特徴です。このオープンなシステムによって放射線科の医師は、技師はもとより主治医や他科の医師と顔を合わせる機会も多く、スタッフ間の円滑なコミュニケーションがはかれています。このため、放射線診断医の診断に対し、主治医が疑問を持った場合は、すぐに電話連絡をしてお互いの意見を確認できるよう良好な関係も構築されています。常に主治医と診断医とがダブルチェックを行い、疑問があ

画像診断技術を患者さんとの「物語」に沿って使いこなす

放射線科

れば解決する、こうした風通しのよさや雰囲気よさが、質の高い迅速な診断と治療につながっています。

また、主治医の意図しない所見があった場合、主治医への報告だけでなく医療安全管理室への報告も行っています。報告は全てデータ化されており、もし主治医がその所見に対応できていないようなことがあれば、医療安全管理室から主治医に確認をとる仕組みになっています。このように遅滞なく確実に治療を行えるようなチェック体制も構築されています。

AIの強みと人の目の強みで診る

画像診断装置の性能は日々向上しています。当院では320列のマルチスライスCTを導入し、検査時間の短縮や被爆量の低減など、患者さんの負担が軽減されるよう努めています。また、AIによる画像認識システムも導入しています。AIは、胸部CTの水平断画像で小さな肺腫瘍を認識することに関しては、人間の目を越えるところまでできています。椎体や肋骨の識別なども、AIは非常に正確に認識します。しかし、AIはまだ自動で疾患の診断を下すというようなレベルには至っておらず、そこは私たち診断医の目のほうが優れていますので、AIの秀でた分野をうまく利用していければと思っています。

さらに、MRIを応用した新しい撮像法にも取り組んでいます。現在、歯科・口腔外科分野における下歯槽神経の描出では、CTで下顎管を描出することで神経の場所の見当を付けています。そこで新たに下顎管のなかの神経を画像にしたいと考え、MRIで神経そのものを描出できる「MRニューログラフィー」という新しい撮像法の開発に放射線技師とともに取り組んでいます。現在は描出データを蓄積しているところで、さらなる診断の一助になればと考えています。

患者さんの「物語」の共有を

当科では、CT検査、MRI検査、核医学検査、骨塩定量検査を、近隣の医療機関の先生方から撮影を承る「ダイレクトサービス」で実施していますので、是非ご利用ください。お申し込み方法は当院のホームページをご覧ください（「市川総合

病院 近隣 ダイレクト」で検索）。

ダイレクトサービスご利用の際や患者さんをご紹介頂く際は、主治医の先生と患者さんとの間で病状についてどのような共通認識があるのか、病歴などを含めた患者さんの「物語（ナラティブ）」を合わせてお知らせください。例えば、「腹部精査」という指示では腹部全体を検査しますが、糖尿病の悪化に伴う膵臓の腫瘍が疑われるという「物語」があれば、背景を考慮した撮影方法を選択し、診断をします。また尿管結石なのか胆石なのかでも撮影法は変わってきます。

地域の先生方と患者さんと私たちとで、患者さんの「物語」を共有することで、より適切な診療・診断につなげていきたいと考えています。

Dr's profile



Koshi Ikeda
池田 耕士 医師



出身地

大阪府生まれ、小学校から高校までは石川県。長らく大阪府に住んでいました

趣味

単身赴任なので、関西に帰った時に家族とドライブするのが楽しみです



医師になったきっかけ

母方の親戚に医師が多かったことから興味を持ち、医師を目指しました

スポーツ歴

大学時代にゴルフ部に所属していました



座右の銘

現状に安住せず新しいことに挑戦する

【掲載写真について】感染症対策を行ったうえ、撮影時のみマスクを外しております。

医療機関の先生方へ

市川総合病院 診療情報提供書

検索

当院と地域の病院・診療所の先生方との間で、患者さんのご紹介などを円滑に行えるように、「地域医療連携室」を設置しています。ご不明な点がございましたら、下記へお尋ねください。

患者支援センター地域医療連携室 TEL 047-322-0151(内線2214) FAX 047-324-8539(直通)

開室時間 月曜日～金曜日：午前9時～午後5時 土曜日：午前9時～午後1時(第2土曜日は休診日)